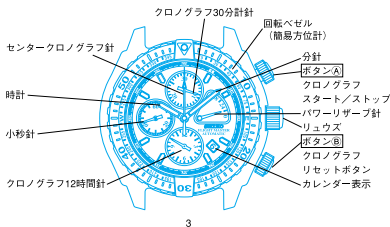
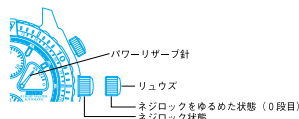


1. ご使用方法

(1) 各部の名称とはたらき



3



(3) 時刻・日付の合わせかた

・時計が動いてから、日付・時刻の合わせをしてください。
 ・この時計には、日付表示機能がついています。24時間に1回日付を一日分送るようになっています。日付は、午前0時ごろ送るようになっています。よって、午前午後をまちがえて時刻合わせをしても、お昼の12時ごろに日付が変わってしまいます。

①リュウズを左方向(6時方向)にまわしてネジをゆるめます。リュウズを1段目まで引き出してください。(秒針は動いています。)

5

△注意

・機械時計は、クォーツ時計と機械が異なりますので、時刻を合わせる際は、針をいったん正しい時刻よりやや遅らせておき、それから正確に合わせようしてください。

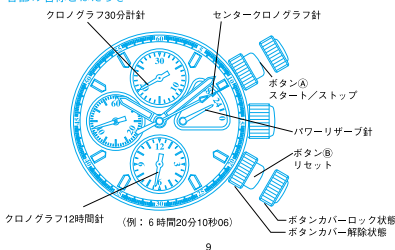
④時鐘と同時にリュウズを0段目まで押し込んでください。
 ⑤リュウズを押しつけながら右方向(12時方向)に止まるところまでしっかりネジ込んでください。
 ※時刻合わせは、電話の時報サービスTEL117が便利です。

(4) 月末の日付修正について
 2月(1かが月が28日、うるう年は29日)と小の月(1かが月が30日)では日付の修正が必要になります。

(例) 小の月の翌月1日の朝、日付を修正する場合
 ①「1日」ではなく「31日」が表示されています。リュウズを左方向(6時方向)にまわしてネジをゆるめ、リュウズを1段目に引き出してください。
 ②リュウズを回転させ、日付を「1日」に合わせ、リュウズを押し込んでください。
 ③リュウズを押しつけながら右方向(12時方向)に止まるところまでしっかりネジ込んでください。

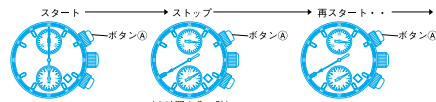
7

・各部の名称とはたらき



9

【時間計測を精算で行う場合】 ボタンを押す順序: A→A→...→A→A→B



・ボタンAを押すとセンタークロノグラフ針が動き始めます。
 ・計測中に何度もボタンAを押すことで繰り返しクロノグラフ針を動かすことができます。

11

(6) 簡易方位計の使いかた [時計(短針)を使い方を知る]

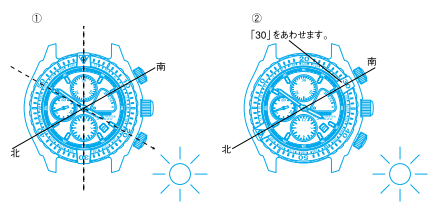
●簡易方位計を使用する際の注意事項
 (1) 北半球でのみ使用可能ですが、緯度の低い地域(北回帰線より南)では季節により利用できない場合があります。
 (2) 太陽の位置が確認できる必要があります。
 (3) 簡易方位計を使用する場所の現在時刻に合っている必要があります。
 (4) 簡易方位計であり正確な方位をしるためのものではありません。登山/アウトドアレジャーなど正確な方位を必要とする場合、必ず従来の磁石式コンパスを併用してください。

●具体的な使いかた
 ①時計を水平に保ち、時計の時針(短針)を太陽の方向に向けます。
 ②時針(短針)と12時の目盛りの中間点が南です。そこに、回転ベゼルの「30」(南)を合わせます。その時に、回転ベゼルの方位がそのまま方位となります。また、回転ベゼルには15度毎に方位が刻印されています。(E: 東, W: 西)

※午前中は、12時を基点に時計まわりとは反対の時針(短針)との中間点、午後は、12時を基点に時計まわりの時針(短針)との中間点を求めます。

13

(午後の場合)



15

(2) 自動巻き式機械時計の取扱いかた

・この時計は、自動巻き式機械時計(手巻き付き)です。
 ・ゼンマイは時計を動かした状態では通常の腕の動きで自然に巻くことができます。
 ・また、リュウズを左(6時方向)にまわして、ネジをゆるめ、リュウズをまわしてゼンマイを巻くこともできます。
 ・止まっている時計をお使いになるときは、リュウズをまわすか、時計を振って時計を始動させてください。秒針が動き出したら日付と時刻を合わせて腕におつけください。
 ・ゼンマイを巻く際には、まず、リュウズを左方向(6時方向)にまわして、ネジをゆるめてから右方向(12時方向)にゆっくりとまわしてください。なお、リュウズは左方向(6時方向)では空回りするようになっています。
 ・ゼンマイはパワーリザーブ針が「48」目盛りを指し示すまで巻き上げてください。(それ以上巻いてもリュウズは空回りしますのでゼンマイを巻き切る心配はありません。)ゼンマイを十分に巻き上げられた状態で約50時間動き続けます。
 ※ただし、クロノグラフが作動しているときは50時間より短くなります。
 ・ゼンマイの巻き上げが不足すると進み遅れの原因になりますので、1日8時間以上携帯することをすすめます。なお、時計を腕につけないでご使用される場合は、毎日一定の時刻にゼンマイを十分に巻いてご使用ください。
 ※パワーリザーブ機能:ゼンマイの残り時間を表示する機能

4

②リュウズを回転することで日付の修正ができます。前の日の日付に合わせます。

(例) 合わせる日付が「6日」の場合、「5日」に合わせます。
 右方向(12時方向)にまわすことで日付合わせが行えます。

△注意

・時刻表示が午後8時から午前2時までの間、日付の修正をしないでください。この時間帯に日付を修正しますと、翌日になって日付が切りかわらないことがあります。

③リュウズを2段目まで引き出します。秒針が「12時」の位置にきたときに引き出してください。(秒針が止まります。)リュウズを回転させ、針が進む方向にまわし、日付が今日の日付になるまでまわしてください。日付が変わると「午前」です。さらに進めて現在の時刻に合わせます。

6

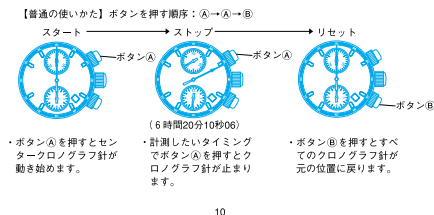
△注意

・時計の針が午後8時から午前2時の間にあるときは、日付修正は避けてください。故障の原因になります。

(5) クロノグラフ機能の使いかた
 ・15秒単位で最大12時間まで計測可能です。
 ※クロノグラフ機能とは、スタート/ストップ機能と時刻表示機能を合わせた機能のことです。
 ※使い始めには、センタークロノグラフ針が0位置に合っているか確認してください。合っていないときはボタンAを押すことで修正できます。
 ※クロノグラフ機能の使い始めには、ゼンマイの巻き上げが充分であることを確認してください。パワーリザーブが10時間以下ではクロノグラフ機能は作動しません。

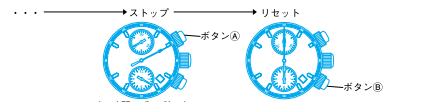
8

●クロノグラフを使用する場合は、ボタンカバーAおよび、ボタンカバーBを右方向(12時方向)にまわして、ロックを解除してください。また、誤差動防止の場合は、ボタンカバーAおよび、ボタンカバーBを左方向(6時方向)にまわしてロックしてください。



・ボタンAを押すとセンタークロノグラフ針が動き始めます。
 ・計測したいタイミングでボタンAを押すとクロノグラフ針が止まります。
 ・ボタンBを押すとすべてのクロノグラフ針が元の位置に戻ります。

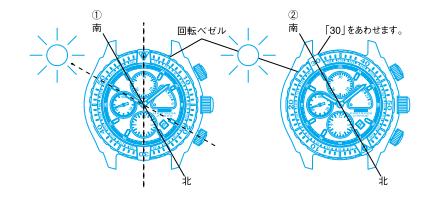
10



・ボタンAでクロノグラフ針を止めた後、ボタンBを押して元の位置へ針を戻します。

12

(午前の場合)



14